

令和元年となった2019年の演劇・舞踊を代表する3作は何だったか。心に残ったステージを各ジャンルの評論家と編集委員が振り返った。

演劇・舞踊

今年の 収穫

上村 以和於
歌舞伎

大御所、脇役、新進から
それぞれ一人に絞り込んで
のベスト・ワン三題である。

①は「左衛門」が「盛綱陣
屋その他で示した、練達の
芸に託した思いの深さとい
ずれかと迷った末の選択で
ある。いずれも、半世紀余
に及ぶ舞台人生への思いを

- ①尾上菊五郎 「め組の喧嘩」辰五郎、「江戸育お祭佐
七」佐七 「髪結新三」新三 (5、10、11月歌舞伎座)
- ②中村歌六 「三人吉三曰百浪」土左衛門伝吉、「伊
賀越道中双六・沼津」平作 (10、9月歌舞伎座)
- ③中村児太郎 「晴立沢の対面」女朝比奈、「女車引」
八重、「素襷落」姫御寮、「壇浦兜軍記」阿古屋
(1、6、7、12月歌舞伎座)

練達の芸にじむ深み

たドイツの劇作家・ビューヒナーの原作に、ベルリンの壁崩壊から30年という今 日性を加えて、田中孝弥が脚色・演出。格差や民族の壁、人の心の壁。偏見に惑わされない民衆の力への期待を込めた。

③は、孤独な青年の想いと空想の世界を、内藤裕敬の躍動的な演出で鮮やかに展開つつ、現実の喪失感を描写。社会から取り残された孤立する現代人を、象徴的に描いた。

九鬼 葉子

現代演劇(関西)

現代社会の課題に真摯に取り組み、ダイナミックな演出で魅せる舞台の多かつた1年。(①)は手塚治虫の自

伝的な漫画を原作に、戦争で失われる若者の青春、夢や命を描いた。岩崎正裕演 出は清々しい合唱を交え、命の尊厳を未来への希望をこめて訴えかけた。

②はフランス革命を描い

- ①兵庫県立ピッコロ劇団「マンガの虫は空こえて」
(2月、兵庫県立芸術文化センター)
- ②清流劇場「壁の向こうのダンント」
(3月、一心寺シアター・俱楽)
- ③南河内万歳一座「唇に聞いてみる」
(6月、一心寺シアター・俱楽など)

命の尊厳、未来の希望



12月歌舞伎座公演「壇浦兜軍記」で
阿古屋を勤める中村児太郎(中央)